

地域の会 長岡技術科学大学学生との対話集会 概要
 (技術コミュニケーションに関する教育内容会)

日 時	平成27年7月1日(水)13時～16時10分
場 所	長岡技術科学大学原子力棟301 原子力システム安全専攻大学院講義室
参加者	<p>－委員－ (五十音順 敬称略) 石坂・桑原・高橋 (優) ・竹内・武本・千原・内藤・・・7名</p> <p>－技科大－ 大学院生44名</p> <p>－事務局－ 柏崎原子力広報センター 石黒</p>
概 要	<p>●長岡技術科学大学では、平成24年から原子力システム安全工学専攻を開設し、原子力安全を専門的に学ぶ学生教育を進めている。</p> <p>●講義の一環に「技術コミュニケーション論」があり、リスクコミュニケーションの重要性について実践的活動を行っているとして「地域の会」に対して学生との対話集会への参加協力依頼があり、それに応えて委員（運営委員）が参加した。</p> <p>●会の活動等について石坂委員が概要説明を行った。</p> <p>●その後、大学院生と地域の会委員のグループ討議が行われ、グループごとに設けたテーマに関して活発な意見交換がなされた。各グループのテーマは以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人は放射線によってどのように影響をうけるのか 2. 原子力発電所はどのようにして事故を起こすのか 3. シビアアクシデント時のベント機能とリスク 4. 放射性物質の拡散予測シミュレーションへの期待と限界 5. シビアアクシデント後の原子炉の廃止措置とそのリスク 6. 廃止措置中に存在する“汚染水”とそのリスク

委員感想

- 今回初めて参加した。いろいろな意見を出し、いろいろな意見を聞くことができた。相対的には信頼関係をどうやって作るか、ふだんからどうつきあっていくのかということだと思う。今日はとても勉強になった。将来の技術革新に期待したい。
- 大変勉強になった。お疲れ様でした。
- 学生の皆さんの真剣な議論に感銘を受けた。有意義だった。ふだんからのコミュニケーションが重要だという発表が多くあったと思う。学生の皆さんにはふだんから意識していただきたい。
- 市民感覚の意見を学生の皆さんに聞いてもらった。お客さんの求めることに技術者としてどう応えるか、市民が本当に求めていることを意識してほしい。市民の本音を引き出すにも信頼関係が必要。皆さんの成長に期待している。
- 学生の皆さんの基礎研究が将来役に立ち、社会貢献することを確信した。
- 最初、学生の皆さんの声が小さくてよく聞こえなかった。議論が進むにつれて声も出てきたが、人に伝達するときは、大きな声でわかりやすく、が第一歩。福島の抱えるリスクにしっかり対策できる技術を持っていれば、他のリスクも下がるものと思う。
- 皆さん一生懸命勉強してお疲れ様でした。

グループ討議風景

